

① 誰もが空家で困らない 住み継がれるまち 八尾

すべての空家が適切に管理、活用され、建物が適切に次世代へ引き継がれるまちづくりをめざします。

また住宅や土地は本来大切な財産で価値があるにもかかわらず、空家となってしまうことにより周囲への悪影響等により心理的に負のイメージを持つものとなってしまう。しかし、適切に管理・利用されることにより住宅や土地という財産や価値が損なわれることなく次世代に引き継がれるべきと考えます。

そういった、「空家」の持つ心理的な負のイメージが、住み継がれることにより払拭されるという概念・理念とし提案しております。

② 「ありがとう」と「よろしくね」でつながる、にぎわい住み継がれるまち八尾

自身が生まれ育った住宅や使用した建物への感謝と、建物が断続的に次の所有者に引き継がれ利用される、にぎわいのあるまちづくりをめざします。

住宅は誰しもが生まれ育った場所であり、思い出のあるものです。本来そういった住宅を簡単に放置・放棄できるものではないと考えます。所有者一人一人に今一度、自身の住宅への思い出や感謝を考えていただき自発的な空家への関わりを期待すると共に、空家を通じて人や建物がつながり、まちづくりにつながる期待を含めた概念・理念とし提案しております。

③ 「使って」にぎわい、「暮らし」で惹かれる、「住んで」つながる、にぎわい住み継がれる住宅

建物が活用され、利用者が八尾に魅力を感じ、住むことで人がつながるにぎわい住み継がれるまちづくりをめざします。

「使う」（一時的な使用）、「暮らす」（一定期間の滞在）、「住む」（永続的な居住）という段階的な時間・期間軸として八尾市への関わりと、「にぎわい」、「惹かれる」、「つながる」と人や建物とのつながりを段階的に表現しております。空家を通じて八尾市と関わりを持ち、魅力を感じ、更ににぎわいのあるまちとなっていくよう期待を含めた概念・理念とし提案しております。

④ すべての家に明かりが灯るまち八尾～空家の活発な活用をめざして～

すべての空家が利用され、空家のないまちをめざします。

すべての空家が断続的に利用され、夜になるとすべての住宅に明かりが灯り空家のないまちを表現しております。空家の活用により、文字通り住宅に明かりが灯り、それらに住まうすべての住民が空家による不安や心配のない光に満ち溢れた輝きのある住生活を送れるよう期待を含めた概念・理念とし提案しております。